

---

3 年次前期・がん看護専門看護師コース必修  
3 単位

---

【概要・目標】

【概要】

実習Ⅲは、実習Ⅰと実習Ⅱで習得したがん専門看護師の役割とその実践に加え、実習指導担当医の指導のもとに、包括的指示に基づく保助看法第5条に依拠した「がん診療の診断治療に伴う臨床判断及び身体管理」に重点を置き、組織横断的に具体的な実習計画を立て、患者の「課題・問題」解決に向け援助し、がん看護専門看護師の専門性を検証、考察する。

【目標】

- ① 医師の業務（診断と治療，多職種への連絡・指示，カンファレンス，患者・家族とのコミュニケーション等）を理解する。
- ② 病態の理解と診断に向けての検査および患者の意向を考慮した多職種と協働しながらの臨床判断のプロセスを学ぶ。そして，がん治療遂行のための患者とその家族が抱える課題・問題を焦点化し，組織横断的な計画を立案し考察することができる。
- ③ 医師の指導のもとに「超音波」，「心電図」，「放射線読影」等について医学的診断を体験し，考察することができる。
- ④ 薬物療法についての知識・技術に基づいて，抗がん剤投与中の有害事象の判断と適切な対処を体験し，考察することができる。また，ゲノム医療について，エキスパートパネルに参加し，多職種連携，最善の治療の選択と患者の意思決定支援について考察できる。
- ⑤ 対症療法を含む薬物治療，緩和的治療薬の選択と投与に関し，患者の症状に応じた適切な薬剤の選択及び適正使用について考察することができる。
- ⑥ 緩和ケアにおいて，医師の指導を受け，症状アセスメントおよび緩和治療薬の選択と投与に関し患者の症状に応じた適切な薬剤の選択及び適正使用について，考察することができる。
- ⑦ 放射線療法についての知識・技術に基づいて，皮膚・口腔内保護剤の選択と決定など，放射線治療中の患者に想定される有害事象についてのアセスメントとそれに対する対応処置について，考察することができる。

---

【実習期間】

4 月から 9 月における 3 週間（15 日間）

【実習施設及び指導者】

和歌山県立医科大学附属病院

呼吸器内科・腫瘍内科：山本信之教授

緩和ケアセンター長：月山 淑准教授

和歌山県立医科大学大学院保健看護学研究科 山田 忍(がん看護専門看護師)

---

【授業内容・スケジュール】

① 基本的スタンス

実習指導医師のスーパーバイズのもと臨床場面で包括的指示に基づく「臨床判断及び身体管理」実習を展開する。その際，患者・家族の権利と尊厳を守る視点を優先する。実習指導医師がコーディネートした患者を担当する。

---

## ② 実習場所

呼吸器内科・腫瘍内科(ゲノム外来)外来及び病棟(11 西), 外来治療室, 内視鏡センター, 泌尿器科外来及び病棟(9 西), 緩和ケア外来及び病棟(5 西), 放射線科, リハビリテーション科。

## ③ 日々の実習

実習指導者(医師)のスーパーバイズを受けながら実習を行う。必要時, 指導教員に報告・連絡・相談する。毎日の実習終了後に指導教員と実習の振り返りを行い, スーパーバイズを受ける。

## ④ 内容

(ア) 治療方針に関する患者・家族への説明に同席し, 医師の業務の現状と課題を考察する。

(イ) 治療に関する優先順位の決定の場に参加し, 治療のエビデンスやその背景を理解し, 考察する。

(ウ) 医師の指導のもと, がん患者の「問診から診察の全過程」に立ち会い, 診断のプロセスを理解する。

(エ) 受け持ち患者の薬物療法, 処方(治療薬剤および投与量の決定, 有害作用に関する情報)についてその実際に体験し, 考察する。

(オ) 化学療法を行う患者への説明, 静注実施前の確認, 実施, 実施後の観察(薬剤の主作用, 有害作用の有無)を行い身体管理の実際を理解する。

(カ) 化学療法中の有害事象の判断と適切な対処について理解する。

(キ) 受け持ち患者の放射線療法について, 処方(照射方法および照射量の決定, 効果と有害作用に関する情報)について理解する。

(ク) 多職種が連携したカンサーボード(第3 火曜日 17:00-17:30), 症例検討会, 地域連携がん診療協議会等のチーム連携の場に参加し, そこで検討されている, 症例・疾患の種類と特徴, およびその診断・治療・ケアについて理解する。

(ケ) ゲノム医療について学び, エキスパートパネル(火曜日 17:30-18:00)に参加し, 他職種が連携した患者支援について理解する。

(コ) がん看護専門看護師に「期待されている看護介入・必要な看護介入」について分析・考察する。

## ⑤ カンファレンス

第3 週の終了日にカンファレンスを開催し, 受け持ち患者に実施した「臨床判断及び身体管理」について実習指導者(医師)の助言を得て, 学びの課題・意義を明確にする。開催に際して, カンファレンス資料を関係者に配布し, 終了後に記録を作成する。実習指導者(医師), 実習指導教員(がん看護専門看護師)のスーパーバイズを受ける。

## ⑥ 実習中の記録

### (ア) 日々の実習記録

実習記録には, ①日々の実習目標, ②参加あるいは実施した場面と考察および評価, ③今後の課題を記録し, 毎日, 実習指導教員が指定した時間に提出する。

### (イ) カンファレンス記録

中間および最終カンファレンスの内容(討議内容, 助言・示唆等)を A4 版 2 枚程度にまとめ提出する。

### (ウ) 課題レポート

がん看護学実習Ⅲの記録用紙に担当した患者の診断から治療までの過程およびアセスメントを記載し提出する。

医師の診断から治療までの過程で, がん看護専門看護師としてどのような関わりを行うことが, 患者の QOL を維持向上することに繋がるのかを考察する。

---

**【評価】**

- ① 出席状況や実習への参加状況，指導者の評価，カンファレンス参加者の評価（50%）
  - ② 日々の記録，カンファレンスの記録，課題(実習要項に記載)レポート内容（30%）
  - ③ プレゼンテーションや討議への参加（20%）
- 

**【その他】**

連絡先：yamada-s@wakayama-med.ac.jp